

阿里雲(Aliyun)雲棲大会 現地レポート

2017年10月11～14日 浙江省杭州市雲棲小鎮

クララオンライン中国

2017年10月11～14日、阿里巴巴集団(アリババグループ)のクラウドサービス、阿里雲(Aliyun)が主催するカンファレンスが杭州市で開催された。今年は前回の2倍の規模で開催され、67の国と地域から6万人が参加したほか、137の国と地域の1,500万人がライブ配信を視聴したという。馬雲総裁の講演には会場に入りきれないほどの人が集まり、注目の高さが伺えた。また400社以上が出展した展示ホールでは、「スマート+」に関する最新テクノロジーを実際に体験することができ、様々なセッションを通じて、最先端テクノロジーの発展の行方を実感することができた。

1. 大会規模は昨年の2倍に

2017年10月11～14日にかけて、阿里巴巴集団(アリババグループ)が主催する開発者向けカンファレンス「2017雲栖大会」が浙江省杭州市の雲栖小鎮で開かれた。

大会期間中は、クラウドコンピューティング、ビッグデータ、人工知能、新小売業態、スマートデバイス、VR、AR、量子コンピューティング、IoT、データベース、生体認証、航空宇宙、金融など20の最先端技術分野について、2つのメインセッション、20のテーマ別サミット、110以上のサブセッションが開かれ、800人のスピーカーが登壇した。さらに3万平方メートルに及ぶ技術展示、音楽祭、ランイベントなど様々な催しが用意された。今年は67の国と地域から6万人が参加したほか、137の国と地域の1,500万人がインターネットのライブ配信を視聴した。



今年のテーマは「飞天・智能」

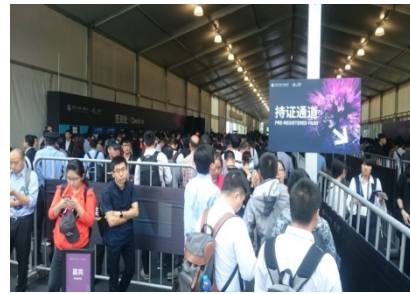


カンファレンス会場

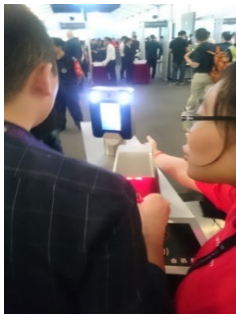
-1-

本レポートは、業界・企業に関する情報の提供を目的としたものであり、お客様の経営判断や購買、契約行為にあたってはお客様のご判断のもとに行っていただくようお願いいたします。本レポートは、クララオンラインが直接ご提供するという方法でのみ配布しておりますので、お問い合わせにつきましてはクララオンラインまでご連絡ください。本レポートのいかなる部分も、一切の権利は株式会社クララオンラインに帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行うことを禁止いたします。なお本レポートに掲載されている第三者の企業名や商標、ロゴマークは個々の権利所有者に帰属します。また本レポートを日本国外で配布することは禁止いたします。

筆者は午前7時半に会場に到着したが、入口には受付を待つ長い列ができていた。受付では申込み時と同じ身分証明書を提示し、その場で自分の顔情報を登録する。これでカンファレンスの期間中は、顔認証で会場に入内することができる。早くて便利という科学技術がもたらす恵みを実感することができた。



入口には長い列



顔認証で入場

今年の雲栖大会は展示会場4ホールと臨時テント会場という、前回の2倍の規模で開催された。会場周辺の交通情報管理には、高德地図のシステムが用いられ、警察が効率的に指示を出せる仕組みが整っていた。また会場内には数百台のカメラとサーマルモニタリングシステムが配備され、会場内の混雑状況をリアルタイムに把握して、来場者の誘導を行っていた。

2. 研究開発機関「達磨院」の設立を発表

メイン会場で行われた阿里巴巴の創業者、馬雲総裁の講演には全国から多くの人々が殺到した。人数制限で会場に入りきれなかった参加者は、広場に設置されたスクリーンの前に集まり講演を待つことになった。



講演の中で馬総裁は「達磨院(DAMO Academy)」の設立を発表した。基礎科学と先端技術研究に今後3年間で1,000億元を投資するとして、阿里巴巴は未来を創る企業でなければならず、世界の未来のために自分の能力、技術、才能を使って、国と社会、さらに世界の革新的なエンジンになる必要が





達磨院の設立発表の様子

ある」と達磨院の目的を強調した。この「DAMO」とは「The Academy for Discovery, Adventure, Momentum and Outlook」の略だが、武侠小说で有名な中国の作家・金庸の作品の中で、達磨院が武術修行の最高域であることにもちなんでいる。まずは量子コンピューティング、機械学習、基本アルゴリズム、ビジュアルコンピューティング、

自然言語処理、人間とコンピュータのインタラクション、チップ技術、センサー技術などを研究領域とすることが明かされた。

3. 展示ホール

展示ホールでは、400社を超えるテクノロジー企業が人工知能、スマートビジョン、演算チップ、無人運転、スマート家事管理、都市管理などの分野における最先端の研究成果を展示していた。



「都市頭脳」と呼ばれるスマート都市管理システムの展示では、交差点に設置されたカメラで交通状況情報を収集し、データ分析した後、信号のタイミングを最適化するソリューションが紹介されていた。杭州市内の試験エリアにこのシステムを投入して1年が経つが、交差点の通過時間が15.3%減少し、立体交差道路の通過時間は平均4.6分短縮され、システムのおかげで救急車が到着するまでにかかる時間は50%短縮されたという。

そして、スマート農業、スマート外出、スマート物流、スマート小売など、様々な“スマート+”の展示エリアも参加者の目を引いていた。スマート農業の展示では、人工知



能と農業を組み合わせた農業機械の障害予測ツールが紹介されていた。今までは壊れてから修理していたが、今後は壊れるタイミングを予測できる。しかも、タイヤが畑の土を押しつぶすタイミングで土壌と環境データを自動的に取得し、分析したデータを農作物の生産に活用できるという。



また人工知能と旅行を組み合わせたスマート外出の分野では、最新の顔認証技術を展示していた。公共交通機関を利用する際、財布やスマートフォンがいらず、顔認証で料金を支払うことができるといい、参加者は自ら体験してシステムの精度と速さに納得していた。

人工知能と物流在庫管理と宅配を組み合わせたスマート物流のエリアでは、菜鳥网络科技有限公司が最新の商品運搬ロボットを展示していた。ロボットによる自動化で、倉庫内作業の効率と精度が大幅に改善するという。



中国のQRコード決済は世界に衝撃を与えているが、顔認証による決済技術もどんどん進化している。スマート小売のエリアに設置されたミニショップでは、顔認証による支払いを体験することができた。自分のAlipayに顔情報を登録すれば、スマホを使わずに“SMILE TO PAY”と名付けられた顔認証技術で支払いを済ませることができる。



刷脸支付 SMILE TO PAY

刷脸支付是由蚂蚁金服生物识别核身平台 ZOLOZ 开发的一款线下产品，目前已接入盒马鲜生。用户在选购后，即使是忘带手机或者手机没电，也可以通过扫脸的方式轻松完成支付。刷脸支付是金融级别的人脸识别应用，具有高安全性、高准确率、高可用性、高实时性的特点。



阿里巴巴集团的金融服务公司、蚂蚁金融が提供する SMILE TO PAY

今現在、中国で一番人気のキーワードである「シェア」。GPS 測位モジュールはシェアエコノミーのコアといっても過言ではないだろう。千尋位置ネットワーク有限公司はシェアバイク専用のスマートロックを展示していたが、シェア傘、シェアモバイル電源など、ふだん街ではあまり見かけないサービスが会場内外のあちこちにあり、さすが最先端のテクノロジーイベントだけあって、利便性も新鮮感も最先端だと感じた。



4. テクノロジーの未来を実感

各分会場のサブセッションでは、クラウドコンピューティングやビッグデータ、人工知能をはじめとする幅広い分野の講演が行われ、関心のある分野を選んで学び、参加者らと交流することができた。



今回のカンファレンスを通じて、最先端テクノロジーの発展の行方を実感することができた。顔認証で支払いができる生活はもう既に目の前に現れている。馬総裁が社会や世界に貢献するためだと語った達磨院は、阿里雲と共にどのように将来の我々の生活を変えるのか、これからが楽しみだ。



- 本レポートに含まれる情報は一般的なご案内であり、包括的な内容であることを目的としておりません。また法律・条令の適用と影響は、具体的な状況によって大きく変化いたします。具体的な事業展開にあたってはクララオンライン コンサルティングサービスチームより御社の状況に特化したアドバイスをお求めになることをおすすめいたします。また本書の内容は2017年11月27日時点で編集されたものであり、その時点の法律及び情報、為替レートに基づいています。

本書はクララオンライン コンサルティングサービスチームにより作成されたものです。クララオンラインの中国、台湾、韓国、シンガポールなどアジア各国のインターネットコンサルティングサービスに関するお問い合わせは以下の連絡先までお気軽にご連絡ください。asia@clara.ad.jp または +81(3)6704-0776